

町医者だより

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器内科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話 047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器内科

令和03年10月号

带状疱疹ワクチン

コロナワクチン接種後に带状疱疹になってしまう方が増えています。New England Journal of Medicine誌の9月16日号にも掲載されているようにイスラエルでの分析でファイザービオンテックのコロナワクチン接種後に、心筋炎、リンパ節炎、盲腸炎、そして带状疱疹のリスクが高まることがすでに明らかになっています。带状疱疹は感染後神経痛が残るだけでなく脳血管障害のリスクが上昇することが知られています。今回は带状疱疹ワクチンについてです。

带状疱疹はヘルペスウイルスで発症

ヒトヘルペスウイルス (HHV)は少なくとも8つ知られています。HHV1が単純ヘルペス1型、HHV2が単純ヘルペス2型、HHV3が水痘・带状疱疹ウイルスです。つまり、小児期にかかる水痘(水ぼうそう)と带状疱疹を起こすウイルスは同じものです。HHV4はEpstein-Barr (EB)ウイルスです。HHV5がヒトサイトメガロウイルスです。HHV6とHHV7は小児の突発性発疹を起こすと考えられていますが、HHV6は薬剤性過敏症候群や「うつ」、「疲労」で再活性化していて病態との関連が指摘されています。HHV8は、エイズ患者のカポシ肉腫の発症に関与することが知られています。

带状疱疹ワクチンは2種類

一つ目は従来からある弱毒生ワクチンです。もう一つはグラクソ・スミスクラインが2020年1月から日本で販売した組み換え带状疱疹ワクチンのシングリックスです。シングリックスと何で名付けたかと言うと、带状疱疹は正式にはHerpes zosterですが、一般的な呼び名はシングルズ (shingles) だからではないでしょうか。ワクチンはどちらを選べばよいか。英国と米国では異なります。英国は町医者だより令和2年11月号「日本の医療の理想像? イギリス」でも触れたようにNHSというシステムで無駄な医療費を使わないようにしています。それでは、医療費も少ないのではないかとするとんでもありません。2018年の国民一人当たりの医療費は英国で47万5千円程度、日本は34万3千円程度です(英国は医療機関での支払いは原則ありません)。その英国が推奨するのが弱毒生ワクチンです。接種無料となる対象年齢は70歳から79歳です。5年間は少なくとも有効としています。英国のオックスフォード大学のサイトによると弱毒生ワクチンの有効性は60歳から70歳で带状疱疹発症を51.3%抑制し、70歳以上では38%抑制でした。带状疱疹後神経痛の発症はすべての年齢で66%以上減少させ、带状疱疹になっても症状を軽くするとしています。

一方、米国ではシングリックスだけを推奨しています。米国では2020年11月に弱毒生ワクチンの販売が終了していますので実質シングリックスだけということになります。CDCの記述では弱毒生ワクチンに関しては、50歳以上に接種できるが50歳代には推奨しないとしていました。60歳代でも最初の5年間は効果があるがそれ以降の予防効果は不明だとしています。さらにCDCのサイトを見るとシングリックスの有効性は、50歳から69歳までで発症抑制が97%、70歳代で91%、带状疱疹後神経痛の発症は50歳から69歳で91%抑制し70歳代でも89%抑制と驚異的で、これらの効果は高水準のまま(85%以上)少なくとも4年は維持されます。一つネックになるのは値段です。当院では弱毒生ワクチンが1回接種で税込み7000円で、シングリックスは1回接種で21000円(予定)です。弱毒生ワクチンは1回投与ですが、シングリックスは2回投与が必要です。